



みわを元気に

三和地域協議会ニュース 第20号 平成30年7月19日発行

三和地域の人口・世帯数
男 1,641人
女 1,710人
合計 3,351人
世帯数 1,690世帯
(平成30年6月末現在)

発行：三和地域協議会
編集：広報編集委員会

「福知山ターンズ」 ご存知ですか？

福知山に移住して
来られた方々のお話
を聴けるラジオ番組
を皆さんはご存知で
すか？



パーソナリティの
荒川久美子さん

福知山市のコミュニ
ティ放送局「ふくち
やまFM」で毎月第一水曜日の午後4
時から5時まで、福知山で新しい暮らし
を始めた方々をスタジオにお招きして、移
住者の方々が感じたキラキラ・ドキドキ・
ワクワクを全国リスナーの皆さんにお届
けしているのが「福知山ターンズ」のコー
ナーです。

【移住】と一言で言っ
てもその想いやスタイルは十
人十色です。福知山で生ま
れ育った後に都会へ出て、
再び故郷へ戻って来られた
方。福知山とは縁もゆかり
もなく、福知山に何かを感じ
たり、気に入ったりして
移住して来られた方など。
そんな方々の「今」を聴
くことが出来ます。

「福知山あるある」や「新しい魅力発
見」など、共感や驚きを体験できるコー
ナーになっています。

←このQRコード
を携帯電話・スマートフ
ォンやタブレットで読み取り、
出てきたリンク先をクリック
すると、内容をお聞きたい
だけです(※通信料がか
かります)



今年もやります！ みわ夏まつり

8月14日(火)
5時30分スタート
三和荘周辺・広場にて

夜店(スーパーボール・
金魚すくい)
鉄道模型電動カー
ビンゴゲーム
(1等豪華賞品ほか)
バンド演奏・屋台
(生ビール・キャベツ焼・たこ焼ほか)

花火大会
8時～



みわこどもまつり 今年も大盛況でした！



今年も6月3

日「みわこどもまつり」が三和荘ホー
ル・周辺で開催さ
れました。



「キッズ放送局」

砲などの遊
びコーナー
のほか、ゆ
う薬局によ
る調剤体験、
駐在所のお
まわりさん
体験・犯人
さがしゲー



手づくり体験コーナー

今年も、猛暑の中
ボランティアスタッフ・
イベントスタッフのみ
なさんのおかげで無
事こどもまつりを終
えることができました。

どのブースもイベント終了時
までたくさんの人たちでにぎわ
いました。

今年はFMたんばの出張ブー
ス「キッズ放送局」を設け、地
域のこどもたちがDJに変身
して、天気予報や会場案内
など、少し緊張しながらもア
ナウンスしました。

そのほか、昨年に引き続きみ
かんの木文庫&
福知山淑徳高校
による人形劇、読
みきかせ、手づ
くり体験コーナ
ー、紙飛行機と
ばし、竹馬・水鉄



大迫力の「太陽の塔」



今年も人形劇は超満員！



暑い日のかき氷は最高



調剤体験



竹馬コーナー



「犯人をさがせ！」
コーナー

本当にありがとうございました。

第3回 移住者交流会 開催しました！

5月19日、定住促進・情報発信部の主催で開催された。今年も、これまで参加している方に加え、ご家族で参加の「ターンの方、Uターンの方、三和町で移住を考慮されている方など、地元住民の方を交えて46名での交流会となりました。



テーマごとに分かれてフリートーク

第1部は、全員で自己紹介をしたあとと農業、民泊経営などそのな意見交換が行われ、第2部では、農振センター1階の調理室に移動し、5班に分かれて特製猪鍋を作りました。各班それぞれで中

とても喜ばれました。今回は移住者さん同士で「みんなネットワーク」を作



班ごとにわかれて猪鍋づくり



好評だったスタッフ特製
ぶっかけうどん

で調理し「おいし
いねー！」「お肉
がやわらかくて最
高！」と出来上がった鍋を囲みながら
なごやかな時間を
過ごされました。
またスタッフ特
製のぶっかけう
どんも大好評で、小
さいお子さんにも

記憶を辿る



地域活力部会
横田 将吾

この三和町に生まれ育ち、
早いものでもう32歳の節目を
迎えるようとしている。
幼少期の記憶はさほど残っ
ていないものの、ただ三和町
はごく田舎で、大都會の暮
らしに憧れを抱いていた記憶
だけが鮮明に残っている。
また福知山市内へ出かける
と、今となればたいして都会
でもないのに当時はワクワク
していた記憶もある。
高校を卒業し、愛知県岡崎
市へ5年間石材業の修行へ出
た。岡崎市は大都會ではない
ものの、福知山市内と比べると大都會。そこでの一人暮らしを満喫している中で、なぜかいつもこの町と三和町を比べていた記憶がある。
「都会にあつて三和町に無いもの」「そして「三和町にあつて都会に無いもの」
生まれ育った田舎を離れたからこそ、三和町の良さを見つけた瞬間だった。
岡崎市での修行を終え、23歳の時に地元へ戻ると、今度は都会が恋しくなった。そしてまた繰り返すかのように都会と比べる日々が続く。今、32歳の節目で決心がついた。
「無いものねだりはやめよう」
そして「あるもので自分の未来を創ろう」
一度きりの人生。1分1秒先の未来さえ保証されていない。そんな中、自分の人生を納得出来るものにする為には、まだまだ全力で走り続けるしかない。

三和支部の活動と「卓球バレー」

福知山市身体障害者団体連合会 三和支部
支部長 樋口 智子

卓球バレーという競技をご存じですか？

卓球台を使い、ネットを挟んで1チーム6人ずつが椅子に座ってピン球を転がし、相手コートへ3打以内で返すというゲームです。

ルールは、6人制バレーボールを元にタッチネット・オーバーネット・ドリブルなどが採用されています。卓球ともバレーボールとも大きく違う点は3点。卓球台中央に張られたネットと使用するボール・ラケットです。

まず、ネットは白布を下にしてコート面よりピン球1個半（5・7ミリ）の高さに張ります。ボールは玉が弾まないように中に金属球が入っています。ラケットは縦横30センチ以内の大きさの平坦な板を使用します。このラケットは、握りにくい選手への配慮での加工や包帯等での固定は認められています。また、最大の特徴は車いす、もしくは椅子に座って競技することであり、立ち上がった椅子を移動させたりすることは反則になります。このことで、障害者も障害者もイーブンに参加できるスポーツです。

発祥は、京都市にある養護学校（鳴滝）で筋ジストロフィー症児のために考えられました。その時は、まだルールもなく打ち合うだけでしたが、その後バレーボールのルールを参考に整えられ、京都府下で大会が行われるようになりました。

現在では、京都だけでなく、他県でも大会が行われ、全国大会も開催されています。福知山市身体障害者団体連合会でも、「がんばろう会」というサークルがあり、毎週土曜日の午後、福祉総合会館で練習されています。

三和支部の会員のなかにも「がんばろう会」のメンバーがいて年に3

回程度、京都府の大会に参加したり、他市との交流試合に参加したりしています。誰でも参加できる卓球バレーですが、京都の大会では、スピード感あふれるラリーの応酬が繰り広げられ、障害者同士と思えない試合がたくさんあります。春には、交流大会があり、この大



見学の方たちも楽しめます

会は健常者のチームの参加もありますが、勝ち上がるのは難しいようです。

さて、三和支部ではこれまで年2回、春と秋に『集い』を開催し、障害があり、家にこもりがちな方々が外に出て交

流出来る機会を提供してきました。その折に、レクリエーションとして何度か卓球バレーをしていました。

先に説明したように、椅子に座ってピン球を打ち合うので足が痛くて動きにくい状態であっても、思い切り相手チームに打ち返すことが出来ます。

その時の生き生きとした表情、笑い声。帰られる時の『楽しかった』の一言。そして、『もつとしたいね』の声。

そんな中、前会長の奥山ひとみさんから、三和支部で卓球バレーのサークルを作ろうと提案がありました。役員で相談し、一昨年の6月から月1回の練習会が始まりました。

目標としては、①人数が集まらない時があっても、ずっと続ける。②楽しく笑顔で集まれる場所にしよう。福知山市身体障害者団体連合会の「がんばろう会」会長の塩見弘様にもご協力頂き、打ち方やルールも教えて頂きながら回数を重ねています。

更に昨秋からは、三和町民生委員の方々にも参加していただいております。より楽しい練習会になっています。練習の合間には、相談事もできたり、情報交換できたりと、障害者の不安解消にもなっているようです。

会員の高齢化・練習会に参加するための移動手段の確保など課題はあります。

しかし、最初の目標の通り楽しく集まれる場として、また、1人でも多くの会員の皆さんが参加して楽しんでもらうことを大切にして、これから練習会を続けていきたいと思っています。

卓球バレーは障害の程度の重さや、年齢、男女差、また、健常者と障害者関係なく楽しめる競技です。

障害のある方だけでなく、障害がなくても興味のある方は、是非一度体験してみてください。毎月第1月曜日の14時～16時、三和支所内東部保健福祉センターのトレーニングルームでお待ちしております。



ゲーム中みなさんの様子

三和を素材に地域学習すすむ

福知山公立大学地域経営演習

は①「三和地域の生活基盤、商業、医療」、②「交通政策」、③「工業団地の現状」、④「新しい農業の取り組み」、⑤「地域活性化施設のこれから」の5つで、それぞれ午前中1時間の現地見学、午後から講座と討論2時間半を行います。

地域に密着した教育を進める福知山公立大学では、1年生の17人（男性10人、女性7人）が2週間に1度三和地域に入り、地域住民の様々な取り組みを素材にして学習を進めています。

三和地域協議会では、テーマ設定や見学先、講師の依頼など、市役所三和支所と連携してこの授業をバックアップしています。

三和に入っているのは地域経営演習Ⅰの矢口教授と中尾教授が担当のグループ。

4月26日に三和地域内を巡回して地域全体の姿を知った上で、5月17日から7月12日まで5回にわたり、三和で進む様々な取り組みを題材に現地学習、講習、質疑討論を実施し



加美電機(株)へ工場見学

見学したのは三和地域の生活機能が集まった「千束地域一帯」、工業団地で早くから操業する「加美電機」、万願寺甘とうで大規模農業を営む「(株)Season」、三和荘と関連施設などです。

午後は農業振興センターの会議室で、中山間過疎地域の三和で取り組まれているこれらの事業を素材に、様々な議論を交わしました。矢口、中尾両教授の適切な指導のもと、参加

した学生の多くが地方公務員などの公共に関わる仕事を志望していることもあり、講師が驚くようなレベルの質問や意見が飛び交い、充実した学習が進んでいます。



万願寺甘とうの畑を訪問

去る5月26日福知山

観光協会三和支部主催の春のハイキングを開催しました。

アネックス京都三和にある(株)野村佃煮で、佃煮の良い香りに包まれた工場内の製造ラインを見学し、そのあと高台からの眺めの美しい芦洲の廣雲寺を訪れました。お寺の歴史など、住職



製造ラインの行程を見学

「三和のふれあいハイキング」

～春の廣雲寺と(株)野村佃煮の工場見学を楽しみました～



楽しい住職のおはなし

のユーモアを交えた講話に参加者全員がとも楽しく、また興味深く耳を傾けておられました。

また昼食の後は、山野草等で美しい庭園を散策したり、境内の中を拝観したあと三和の景色を楽しみながら帰路につきました。



編集後記

以前、竹富島で沖縄県のアティスト陶芸家の田原マサハという人のライブを観たとき、彼がやんばるの森に宿る精霊「コンコンベ」なるものを創っているという話を聞き、帰省前に一目ぼれして即購入、家の玄関にもう何年も、それは居る。

毎日目が合うのだけれど、その日の天気や時間帯によって表情が違って見える。(少なくとも私にはそう見える。)

陶製で茶と黒、表情はスマイル口とトンガリ口、なんともこのごろんごろんのフォルムがたまらない。

いつの頃からか、我が家ではそれぞれが出かける前、玄関先のコンコンベのあたまをちょんちょんとさわるといのが日課になつている。

へんてこな日課だけれど自然と口角があがる瞬間だったりする。

1日のはじまり、いつも何かをささやいてくれているような我が家の愛する一員なのだ。